

IV 愛知県図書館の歩み

昭和 27 (1952) 年 4 月	講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置
昭和 34 (1959) 年 4 月	愛知県文化会館愛知図書館開館
平成 3 (1991) 年 3 月	愛知県文化会館愛知図書館閉館
平成 3 (1991) 年 4 月	愛知芸術文化センター愛知図書館開館
平成 6 (1994) 年 4 月	宅配便による市町村図書館との間の資料搬送を開始
平成 11 (1999) 年 3 月	特許公報類地方閲覧所の指定解除
平成 12 (2000) 年 3 月	移動図書館（ブックモバイル）の廃止と貸出文庫の開始（4 月）
平成 13 (2001) 年 3 月	インターネット蔵書検索の公開
平成 14 (2002) 年 4 月	A V（視聴覚）資料の貸出開始、図書貸出を 3 冊 15 日から 6 冊 22 日に拡大
平成 15 (2003) 年 1 月	県内公共図書館横断検索システム「愛蔵くん」の公開
平成 17 (2005) 年 3 月	貸出返却業務の 1 階カウンターへの集中化とレファレンス体制の強化、 ビジネス情報コーナー、ティーンズコーナーの設置
平成 18 (2006) 年 3 月	多文化サービスコーナーの設置
平成 19 (2007) 年 3 月	インターネットによる貸出中図書予約、利用状況照会の開始
平成 22 (2010) 年 1 月	貸出中 A V 資料の予約受付開始（本格開始 4 月）
8 月	著作権法第 37 条第 3 項の視覚障害者等のための複製又は自動公衆送信が 認められる者として文化庁長官より指定
平成 23 (2011) 年 1 月	国連寄託図書館の寄託を停止
3 月	特許資料の利用停止
9 月	遠隔地返却制度試行開始（本実施 24 年 4 月）
平成 24 (2012) 年 3 月	A V 資料の貸出期間を 15 日から 22 日に延長

V 平成 23 年度の主要な事業動向

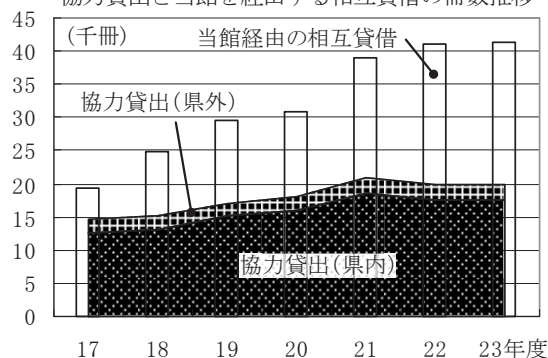
1 市町村立図書館等を介したサービスの状況

(1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

23 年度のサービス計画では、前年度に続き、特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、「市町村立図書館や近隣県立図書館などとの連携による地域の資料提供能力の充実」を掲げ、その目標値を「協力貸出冊数＋県を経由した借受冊数 60,400 冊（前年度比 103%）」とした。

23 年度の県内図書館への貸出冊数は 17,569 冊（同 100.2%）、県を経由した借受冊数は 41,315 冊（同 100.5%）で合計 58,884 冊（同 100.4%）となり、目標を若干下回った。県外図書館への貸出冊数は 2,383 冊で 22 年度の 2,065 冊に比べ 15% 増加した。

協力貸出と当館を経由する相互貸借の冊数推移



(2) 遠隔地返却制度

9 月から 3 月まで遠隔地返却制度の試行を行った。遠隔地返却制度とは、県図書館が来館者に直接貸出した資料を、来館者が居住する自治体の図書館で返却を受け付け、当館が実施している資料搬送便で返送する制度である。試行対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）で、7 ヶ月の試行期間中で延べ 269 人、961 冊点の利用があった。24 年 4 月からは、試行対象自治体に碧南市を加えた 18 市町村を対象に本実施に移行した。

(3) 市町村立図書館への支援

図書館の設置や新館の建設を検討する市町村に対し、情報の提供や職員の参画を含めた支援を行っている。現在、県内唯一の未設置市である清須市において図書館設置の動きが進み、他館事例の情報提供やアドバイス等を行った。23年度に図書館整備に着手し、24年7月開館する。

市町村立図書館支援の一環として県内各団体主催の研修会へ職員を講師として派遣した。23年度は県内で実施された研修会等へ12人を講師として派遣したほか、市町村図書館との情報交換のため延べ23人の職員を派遣した。

市町村立図書館職員向けの研修として、12月2日に「デジタルアーカイブと電子書籍」を開催し、東京大学史料編纂所の石川徹也特任教授による講演会「図書館所蔵史料のデジタル化公開方法」と、iPadやKindle等の電子書籍端末の操作体験会を行った。また、ゆにかネットが一新されたことから、2月9日に国立国会図書館から講師を招いて、「国立国会図書館サーチの使い方」の研修会を開催した。

(4) 大学図書館、高校図書館等との連携

愛知、岐阜、三重、静岡県内の公立図書館と大学図書館による館種を超えた連携・協力を進めるために設立された東海地区図書館協議会に理事館として参加している。同協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館に441件の資料を貸し出した。また92件の資料を借り受け、3件の複写依頼を受けた。

名古屋大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館の間で、18年5月から開始した定期搬送便の実証実験は大学図書館側の物流体制についての検証を実験の目的として23年度も継続した。今後についてはこの結果を待って検討していく必要がある。この搬送便を利用した公立図書館から大学図書館への貸出は620冊(前年度比92%)、借受は288冊(同100%)となった。23年度は公立図書館から大学図書館貸出は減少したが22年度比では上回っており、物流自体は安定期に入ったと考えられる。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。うち高等学校への協力貸出冊数は2校126冊であった。

2 来館者サービスの状況

(1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

開館日は、前年度より1日多い283日だったが、入館者は668,025人と前年度から4.9%減少した。3年連続の減少であり、1日平均では2,361人となった。資料の個人貸出点数(図書、AV資料)は、544,753冊点で前年度並みとなった。AV資料は、14年の館外貸出開始以来、貸出期間を15日間としてきたが、整理休館明けの24年3月9日から図書と同じ22日間に変更した。

レファレンスサービスの件数も、前年度並の38,466件で、レファレンスサービスの一環として作成している「調べ方ガイド」の総配布枚数は、5,666枚だった。レファレンスの内容では、東日本大震災や原発事故の関係から、お住まいの地区の地質図や土地条件図の所蔵の照会や、過去の地震、放射能汚染、原発の施設などについてのお問い合わせも多かった。

貸出中資料の予約も毎年増加しており、総件数30,401件と前年度より10%の増加となっている。

なお、東日本大震災や原発事故により関東・甲信越・東北地方から一時避難された方に資料の貸出しを行うため、在住・在勤要件を緩和して発行を行った。該当者は、23年3月から8月までの間に18人(児童10人、一般8人)で、9月以降の申込みはなかった。

(2) 児童に対するサービス

児童図書室では、蔵書をPRするため、新着図書の表紙カバーを掲示しているが、21年度より担当者間で評価の高かった図書は別のコーナーに再度掲示するようにしたところ、利用者からの問合せや予約件数が年々増加している。また、「ペット」「おぼけ」「仕事いろいろ」など2か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。

発行物では、新着図書を紹介する『新しくいった本』(月刊)、おすすめ本を紹介する『児童室だより』(季刊)のほか、21年度から対象別のおすすめ本リストを作成、配布しており、23年度は『小学校3・4年生向けおすすめ図書』と『小学校5・6年生向けおすすめ図書』を発行した。さらに、読み聞かせ活動を

している方に向けて『おはなし会で読んだ本!』（季刊）を新たに発行した。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間22日44回行った。ほかに夏のイベントとして、8月9日と10日に夏のおたのしみ会を行った。小学生向けでは実験や工作を行い、関連図書の紹介をした。読書週間には、利用者から募ったおすすめ本の紹介文を児童図書室内に掲示した。

児童図書の貸出冊数は前年度比102%の91,585冊であった。

(3) 障害者に対するサービス

著作権法改正の趣旨を踏まえ、視覚障害者資料室を利用できる者を「視覚障害者」から「視覚による表現の認識に障害のある者」へと拡大し、規程類を整備した（24年3月9日施行）。

23年度に作成した録音資料のタイトル数は、カセットテープが2、DAISY（デージー）が既蔵テープからの変換61を含め88であった。視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ304人（前年度比78%）、対応した朗読者数が延べ216人（同68%）、朗読時間数が414時間52分（同92%）であった。視覚障害者資料の貸出数は、自館資料は1,063タイトル（同86%）と減少したが、他館から借り受けて提供したものは3,503タイトル（同184%）と大幅に増加した。また、自館資料の他館への貸出は662タイトル（同111%）であり、年々増加している。心身障害者への郵送貸出の数は、1,047点（同82%）であった。

なお、聴覚や言語に障害のある利用者のために、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の定める「耳マーク」を各カウンターに掲示し、フロアごとに筆談器も備えた。

(4) 各コーナーの状況

ア 地域資料コーナー

地域資料コーナーは、愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料の幅広い収集を目指し、23年度末現在、図書68,566冊、雑誌1,122タイトルを所蔵している。

イ ティーンズコーナー

ティーンズコーナーは17年3月から運用を開始し、蔵書は約6,700冊となった。

ヤングアダルト向けの図書の充実とともに、「てこぼん」（おすすめの本のPOPと図書館グッズを交換できる利用者参加型企画）の実施や、企画展示の開催、愛知県内の高校・大学が発行した学校案内のコーナーを設置するなどのサービスを行っている。また、24年1月にティーンズコーナーホームページを改訂し、コーナーの紹介・調べ学習に役立つホームページを紹介するリンク集を新設した。

ウ 多文化サービスコーナー

多文化サービスコーナーは18年度に本格運用を開始してから、安定した利用が続いている。図書資料は実用書、文学を中心に中国語・ハングル・ポルトガル語の新刊書を購入、23年度末現在の資料数は約4,300冊となっている。また、日本語学習用の資料も積極的に収集しており、この分野は特に利用が多い。22年度から各言語での利用案内と新着図書の一覧をホームページ上で見られるようにした。

エ ビジネス情報コーナー

23年度は、「上司・先輩になったら」「職業・資格の本」「ビジネス小説」「新興国—BRICsを中心に—」「新社会人に贈る100冊～仕事の基本と知識～」のテーマに関連する図書のミニ展示と貸出を行ったところ多数の利用があった。「職業・資格の本」の関連行事として、愛知県労働協会あいち労働総合支援フロア職業適性相談コーナーによる「自己分析の第一歩 職業適性検査(簡易版)」を6回開催し、10代から60代まで幅広い年齢層の参加がみられた。また、企画展示として、恒例となった日本政策金融公庫との共催事業「あいちの起業家応援フェア」と「創業・経営支援セミナー」を開催し、今回も盛況であった。

3 インターネットを利用したサービスの状況

(1) アクセス状況

インターネットによる貸出中資料への予約の利用は、前年度比14%増と伸びが続いている。カウンターでの予約も4.2%増えているが、インターネット予約が予約全体の6割を占めるようになった。

ホームページのトップページへのアクセス563,814回(前年度比91%)、蔵書検索ページのアクセス数244,804回(同93%)、横断検索「愛蔵くん」へのアクセス361,330回(同95%)、携帯サイトの総ページビュー

ーは161,999ページ(同100%)といずれも前年度を下回った。前年度のアクセスの伸びが大きかったための反動と考えられるが、「愛蔵くん」については、いくつかの市町村立図書館のシステム更新に伴い、長期に渡って検索できなかった期間があったためと思われる。

(2) 「貴重和本デジタルライブラリー」の公開

22年度にデジタル化した「貴重和本デジタルライブラリー」を公開した。当館が所蔵する貴重な資料の電子画像をインターネットで見られるようにしたもので、近世及び近代初期の地域資料を中心とする53タイトルについて、電子画像の作成、書誌データの整備などを経て、11月から一般公開した。公開日から年度末までのアクセス件数は、3,007回であった。

(3) 「絵図の世界」のデータ変換

当館には県文化財に指定されている元禄期の尾張、三河の国絵図を始め、名古屋城下絵図、村絵図等、江戸時代から明治初期にかけての貴重な絵図が多数所蔵されている。これらの絵図を14年度にデジタル化し、15年度から「絵図の世界」としてインターネットに公開している。「絵図の世界」では、大きい絵図の細部まで再現し、学術的な利用に耐えるものを目指し、高精細画像閲覧システムGigaview(ギガビュー)により作成した。しかし、GigaviewはWindowsXPをもって販売を終了し、以降のOSへのサポートを停止したため、時とともに高精細画像の閲覧ができないパソコンが増加してきた。高精細画像を別の方法で提供するため、23年度緊急雇用創出事業基金事業を利用して、Zoomify(ズーミフィー)にデータ変換を行った。Zoomifyは、画面の部分拡大により絵図に書かれた微細な文字まで判読可能であり、ほとんど全てのOSやブラウザで閲覧・利用できる。新しい「絵図の世界」は、24年6月に公開した。

4 資料の収集

(1) 図書の収集状況

23年度は、合計23,050冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書18,946冊、洋書116冊、計19,062冊。寄贈による受入が和書3,828冊、洋書79冊、計3,907冊。貸出文庫用図書からの管理区分の変更による受入が81冊であった。購入による受入は、18年度から21年度に21,000冊程度であったものが、22年度は資料費の削減により19,037冊に減少し、23年度は減少したまま横ばいとなった。

(2) 新聞雑誌の状況

23年度は、資料費の削減により購入雑誌タイトル数の大幅な減少を余儀なくされたが、本県が産業県であることを考慮し、技術系雑誌やビジネス系雑誌の継続維持に極力努めた。寄贈については、『物理教育』(日本物理教育学会)をはじめ14誌の機関紙・専門誌などを新規に受入れした。また、『朝日ジャーナル』など当館所蔵雑誌の欠号分を寄贈により補充した。今後は、寄贈受入れをより積極的に進め資料の充実を図っていく。

(3) AV資料の収集状況

映像資料272点と録音資料231点を受け入れた。内訳は、DVD263点、ビデオテープ9点、CD231点であり、購入と寄贈の別では、購入449点、寄贈54点である。録音資料では前年度に引き続き、利用者から要望の高い朗読CDなど文学・講演の分野の充実を図った。映像資料では、テープ磨耗による劣化が進むビデオカセット及びプレーヤー生産中止のため媒体変換が急がれるレーザーディスクの代替DVDの購入を開始した。

5 図書館サポーター

(1) おはなし会

23年度におはなし会サポーターとして登録された方は16名で、毎月第1日曜日と第3土曜日に読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなどを行っていただいた。夏のおたのしみ会にも参加していただいた。

(2) 資料補修

破損・汚損した図書の補修を行う資料補修サポーターには、1名の方に登録していただいた。補修作業に習熟されていることから、補修作業全般にあたっていただいた。

6 県内図書館の動向

24年4月1日現在、愛知県内の市町村は54、図書館設置市町村は47(37市9町1村)、未設置市町村は7(1市5町1村)で、図書館設置率は87%である。県内市町村立のすべての公立図書館がA i c h i ・ L L ネットに登録している。

24年4月から、武豊町立図書館が指定管理者制度を導入した、既に導入している新城、幸田町立、江南市立、津島市立、あま市美和、蒲郡市立、常滑市立、知多市立、高浜市立の各図書館と合せ、県内で指定管理者制度を導入している図書館は、10館となった。また、7月開館の清須市立図書館も指定管理者制度を採用する。

7 県図書館団体等の動向

(1) 東海・北陸地区図書館地区別研修

23年11月29日～12月2日の4日間、当館大会議室を会場に開催された東海・北陸地区図書館地区別研修を主管した(主催:文部科学省、愛知県教育委員会)。研修全体のテーマを「連携と交流のプラットフォームをめざして」とし、根本彰東京大学大学院教授を始め11名の講師による7講義とパネルディスカッションを行い、東海北陸地区6県等から151人の参加があった。

(2) 愛知県公立図書館長協議会

ア ヤングアダルトサービス連絡会

20年に設置された「ヤングアダルトサービス連絡会」は、23年度総会を7月8日に武豊町で開催した。総会では東京都荒川区立町屋図書館の清野愛子氏を招いて、YAサービスの基本についての講義を受け、続いて参加者による情報交換が行われた。その他の活動として、インターネットを利用した情報交換の場としての「YA掲示板」、「ヤングアダルトブックレビュー共同データベース」を運営している。

また、2月に県内公立図書館全館を対象にアンケートを実施した。24年度のヤングアダルトサービス連絡会総会で結果を報告する予定である。

イ 図書館ネットワーク研究会

「図書館ネットワーク研究会」は、「県内公立図書館資料の保存システム」「県内公立図書館資料の物流システム」「県内公立所蔵データ等の情報システム」「その他図書館ネットワークと協力に関すること」の4つを研究テーマとして22年5月に設置され、23年度は3回の会議を行った。23年度は、「県内図書館資料保存システム」についての検討を行い、22年度に愛知県図書館が開発した希少資料調査のための電算プログラムの最終実験を18館の協力を得て実施した。その結果を踏まえ、最終報告として「県内公立図書館希少資料保存のあり方についての研究報告書」をまとめ、愛知県公立図書館長協議会へ提言し、採択された。

ウ 研修

第1回 「これからの図書館に求められるものー「望ましい基準」に関する議論から」講師:葉袋秀樹氏

第2回 「児童サービスで何ができるかー子どもの育ちを支援するために」講師:辰巳なお子氏

第3回 「リーガル・リサーチ」講師:いしかわまりこ氏〔第2回と第3回は愛知図書館協会との共催〕

第4回 「電子書籍の現況とこれからの図書館」講師:湯浅俊彦氏

(3) 愛知図書館協会

愛知図書館協会が実施する研修は連続受講形式で、講義と演習の組み合わせを原則としている。23年度に実施した研修は次のとおりである。

ア 児童サービス研修:全4回の連続受講形式。うち「児童サービスで何ができるかー子どもの育ちを支援するために 講師:辰巳なお子氏」を公開講座とした。

イ レファレンスサービス研修 全4回の連続受講形式。うち、「リーガル・リサーチ 講師:いしかわまりこ氏」を公開講座とした。

ウ 広報研修:「Wordでチラシを作ろう」講師:伊藤勇吉氏 講義と実技を組み合わせた研修。

エ I T研修:愛知淑徳大学の協力を得て、講義と実習を組み合わせた前・後期4日間の研修。